レズビアンに対する女性異性愛者の態度に仮想接触が及ぼす効果

—カテゴリプライミングの効果との比較—

○堀川佑惟¹・岡隆²

(¹日本大学大学院文学研究科・²日本大学文理学部)

キーワード：仮想接触, 態度, レズビアン

The effects of imagined contact on the attitudes of female heterosexuals toward lesbians: Comparison with the effects of category priming

Yui HORIKAWA¹ and Takashi OKA²

(¹Graduate School of Literature and Social Sciences, Nihon Univ., ²College of Humanities and Sciences, Nihon Univ.)

Key Words: imagined contact, attitudes, lesbians

目 的

自身が外集団のメンバーとポジティブな交流を行っている状況を想像する, という仮想接触の手続きによって, 実際の接触と同様に, その外集団への集団間不安の低減を介してその外集団に対する態度がポジティブになることが示されている (Turner, Crisp, & Lambert, 2007)。

先行研究では, 「初対面の女性同性愛者」との仮想接触を行うよう求められた実験条件の参加者は, 「初対面の女性」との仮想接触を行うよう求められた統制条件の参加者よりも, その後のレズビアンに対する集団間不安が低減し, 行動がポジティブになることが示された (堀川・岡, 2017a)。しかしこの効果は, 集団間不安や行動などの測定前に, 実験条件の参加者のみがレズビアンについて考えていたことによるものかもしれない。すなわちこの効果は, 実際の接触と同様の効果ではなく, レズビアンを想像することがカテゴリプライミングとなったことによる効果かもしれない。仮想接触と外集団について単に考える課題としては, 扱われる外集団によって, 態度に与える効果に差がみられる場合とみられない場合があると考えられる (West, Holmes, & Hewstone, 2011)。

本研究の目的は, 仮想接触と, 交流の想像ではないカテゴリプライミングとで, レズビアンに対する態度をポジティブにする効果に差がみられるかを確認することである。

方 法

実験は1名ずつ実施された。実験室実験への参加者35名はすべて女性異性愛者であり, 仮想接触条件またはカテゴリプライミング条件にランダムに振り分けられた。

最初に, イメージ課題が行われた。仮想接触条件の参加者は, まず, 初対面の女性同性愛者と共通の趣味と一緒に楽しむ, という内容の仮想接触を2分間行った。カテゴリプライミング条件の参加者は, 「女性同性愛者」についてイメージする課題を2分間行った。その後, 両条件の参加者とも, 3分間で可能な限り, イメージした内容を紙に書き出した。

その後, 参加者は質問紙に回答した。構成は, Turner, West, & Christie (2013) を参考に作成された4項目7段階評定のレズビアンに対する集団間不安尺度と, レズビアンに対する態度を測定する10項目7段階評定の堀川・岡 (2017b) のATL,

そしてフェイスシートであった。

質問紙への回答後, 参加者は, これから実験室内で女性同性愛者の実験協力者と対談するよう伝えられた。そして, 実験者がその実験協力者を呼びに行っている間に, 対談用の椅子2脚を実験室内に配置された2枚のパネルの間に向かい合わせに設置すること, 実験について疑問や感想があれば用紙に書き出すことを求められた。椅子2脚間の距離は最大100cmであり, レズビアンに対する行動の指標として扱われた。

実験者は, 退室してから2分後に実験室に戻った。そして参加者はデブリーフィングを受け, 対談は実際には行わないことを伝えられた。

結 果

条件間での集団間不安の尺度得点, ATL 得点, 椅子の距離の差を調べたところ (Table), 仮想接触条件ではカテゴリプライミング条件よりも, レズビアンに対する集団間不安の尺度得点 ($t(33)=1.17, p=.25, d=0.40$) と ATL 得点 ($t(33)=1.56, p=.13, d=0.52$) が, 有意ではないものの中程度の効果量で低いことが示された。一方, 椅子の距離 ($t(33)=0.37, p=.71, d=0.12$) には条件間差はみられなかった。

考 察

レズビアンとの仮想接触について, 交流の想像ではないカテゴリプライミングよりもレズビアンに対する集団間不安と態度をポジティブにする傾向が, 効果量によって示唆された。

一方, レズビアンと仮想接触と交流の想像ではないカテゴリプライミングとの間には, その後のレズビアンに対する行動に与える影響に差がみられなかった。堀川・岡 (2017a) の結果を踏まえると, レズビアンとの仮想接触は行動をポジティブにはするものの, その効果は交流の想像ではないカテゴリプライミングと差がないものであるといえる。

引用文献

堀川・岡(2017a). 日本心理学会第81回大会発表論文集, 65. / 堀川・岡(2017b). 日本社会心理学会第58回大会発表論文集, 339. / Turner, Crisp, & Lambert (2007). *Group. Process. Interg.*, 10, 427-441. / Turner, West, & Christie (2013). *J. Appl. Soc. Psych.*, 43, E196-E20. / West, K., Holmes, E., Hewstone, M. (2011). *Group. Process. Interg.*, 14, 407-428.

Table

Mean intergroup anxiety, ATL and chair distance as a function of images

	Imagined contact		Category priming		<i>t</i>	<i>d</i>
	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>		
Intergroup anxiety	2.65	1.20	3.10	1.05	1.17	0.40
ATL	1.79	0.60	2.15	0.74	1.56	0.52
Chair distance (cm)	62.47	15.67	60.24	19.80	0.37	0.12